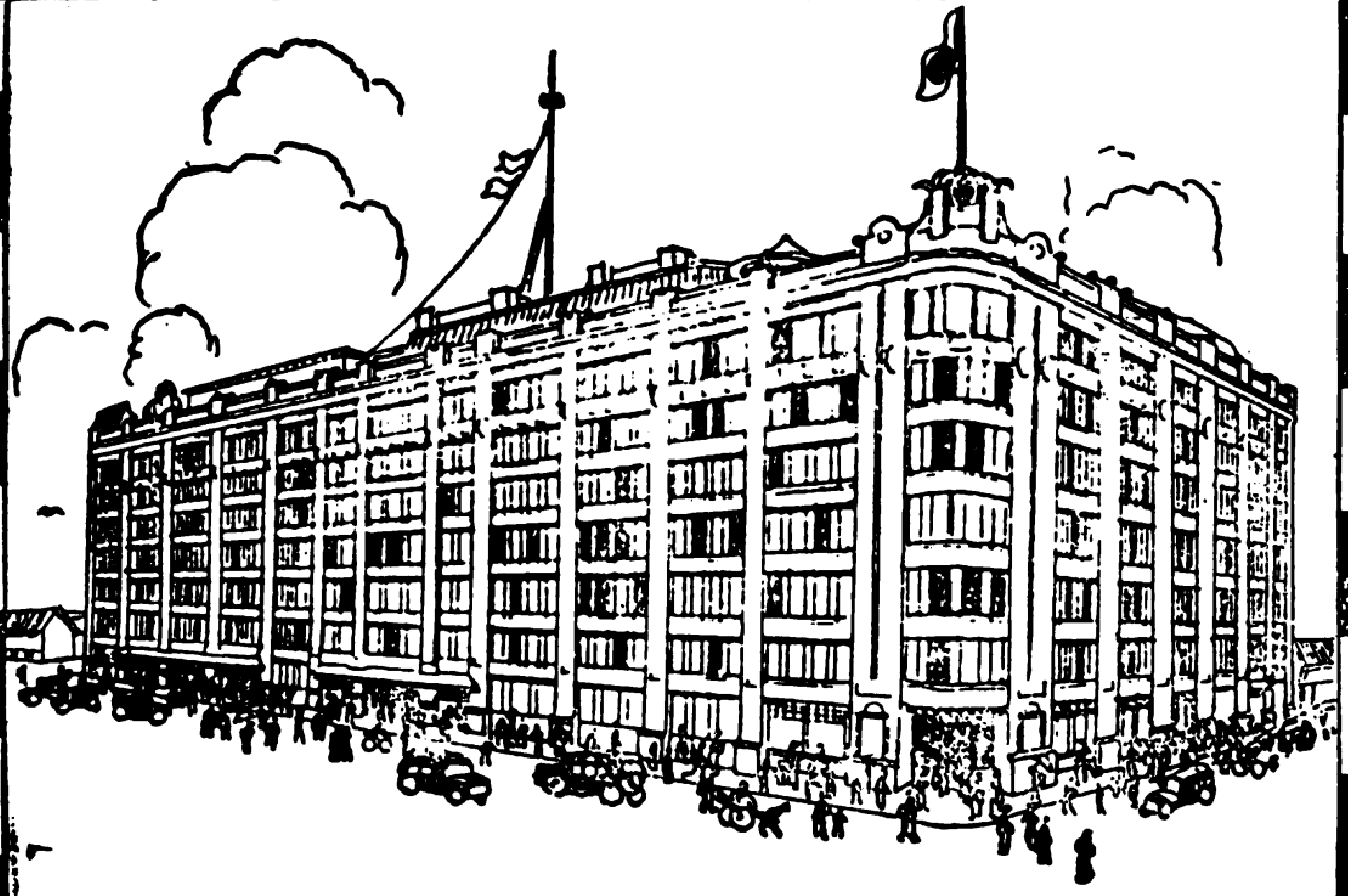
大正十三年九月一日發行（毎月一回一日發行）
第二卷第五號

# 婦人と勞働

## 九月號

贅澤を是認する必要があるか……ラヴレイ
無產婦人に……山川やす子
わが國の富と人口……稻宮又吉
出直さう……奥むめお
問ひに答へて……同人
ある對話……相本まさを
通俗經濟講話　職業婦人の立場から
國際婦人運動　うた

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN




# 三つの優越點と
# 三つの誇りと

三越の商品は、品質の優良さ、量の正確さ、そして値段の低廉さといふ三つのいつも異らぬ優越した點を持つてをりますのみならず、常に斬新さ、實用さ、趣味の三つの特長を誇りと致してをります　何卒十分御吟味の上多少に拘らず御用命の程偏に希上ます。

◇地方よりの御註文は御手紙にて「通信販賣部」宛に願ひます。叮嚀迅速に御調達申上げます。

大阪

三越呉服店

# 婦人と勞働

第二卷　第五號

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

## 婦人と勞働（九月號目次）


贅澤を是認する必要があるか……ラヴレイ（一）
無產婦人に……山田やす子（四）
眞晝の都會……中村美子（四）
職業婦人の立場から……（八）
私達は男と同じやうに働いてゐる……入江いま（八）
一歩づゝ……鳥井慶子（九）
彼女……深井利平（一二）
わが國の富と人口……稻宮又吉（一六）
織物のはなし……（二〇）
國際婦人運動……（二四）
出直さう……奥むめお（三一）
問ひに答へて……同人（二八）
ある對話……楫本まさを（三三）

# 贅澤を是認する理由があるか

奢侈贅澤と云へば、直ちに有産階級の安逸放埓を聯想する私共にとつては、贅澤品などの存在を是認すべき理由は少しもない。

然し、世間には、或る程度までは贅澤品は必要(?)なものであると考へてゐる人々がある。しかも、單に贅澤品を好むといふ事實だけでなくて、理論の上から、社會の進歩のためには、贅澤品も必要であることを立證しやうとする一部の經濟學者社會學者さへあるのである。贅澤品といふ言葉には、その値段、高いこと、直接衣食住の上の必要品ではないこととの二つの條件が含まれて居る。然し、之の二つの條件だけでは、最近或る貴族院議員が云つた「金もないくせに、身分不相應のものを欲しがるのが贅澤である」といふ定義に對して、何の反對をも抱くべき理由はないのである。然しながら、一般に贅澤品と云はれてゐるものは、それ



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

を生産するためには、貴重な材料と多大の勞力とが必要であり、且消費する場合にはその所有者に何等合理的慾望の滿足を與へないものである。そして、現在非常に多くの勞力が、贅澤品の製造に浪費されてゐるのである。一度この事を考へる時、私共は、贅澤品の存在に對して、絕對否認の態度をとらなければならなくなるのである。

而も、世の中には、條件附て贅澤品の存在を許さうとするものがある。曰く、健全なる贅澤は生產の刺戟となると。而して、年額數十億のダイヤモントが生產される結果、幾萬の勞働者は、ダイヤモンド坑の坑夫として、或ひは加工職工として、高額の賃金を獲て生活を立てゝ居る、などゝいふものがあるが、斯ういふ風な理由は、贅澤品を是認するには充分ではない。之に對して、私共は、何故に、それらの勞働者たちが、もつと有用な生產に從事するやうに努めないのであるか、一人の貴婦人の胸間を飾るべき一個のダイヤモンドを造り上げるために必要な勞力を、何故に五十人百人の婦人の安價な衣服を造ることに使用しないのかと云ひたいのである。

スチユワート●ミルは、動物的の無氣力沈滯の狀態を脫しない未開人を覺醒させるには、新しい要求を喚び起して、それを滿足させんが爲めに働かせるのが一番よいと云つたが、現代各國の民衆間には、消費慾などを刺戟する必要はないのである。フランスのやうに富んだ國でも、國民の大多數は、保健衞生上の條件をよく備へた住宅や衣食を享有して居る譯ではない。從つて、その日〳〵の必要品を得やうとする慾望だけても、充分、働く刺戟とはなるのである。何を苦しんで贅澤を奬勵して、生產慾を喚起する必要があらう。

勿論、贅澤品と云つても、絕對的の贅澤品などはあるものでない。今日贅澤品として認められて居るも

のでも、機械的技術が一層發達した明日は、誰でも容易に手に入れることが出來るやうになるものである。從つて、必要品と贅澤品との區別はどこでつけるかと云ふのに、それは出來上つたものが、その生産に、要した時間と勞力とに値して居るかどうかを考へて見ればわかることである。もし生産にあたつて、人間の勞力を有用に使用しなかつたもの、即ち不必要の爲めに必要品の生産を犧牲にしてまで作られたものであつたならば、それは確かに贅澤品であると云ふ事が出來るのである。一方に衣食に窮して居る人々が多數あるのに必要以外の物品製造のために時間と人力とが浪費されるといふことは、私共の到底默許する事の出來ないところである。世間では、慾望の範圍に制限があるのは、未だ文明の低い證據であるといふが、それは、日常必要品に對する慾望について云はれた言葉であつて、之は文化生活の初期に於てこそ眞實であつたであらうが、今日の文化の程度では、徒らに慾望の種類を增加し、その性質を洗練巧緻ならしめることは、唯、惰弱と頽廢へ導くにすぎない。『贅澤品も、或る程度までは、個人生活にも、國家生活にも必要である』などゝは少くとも今日のところでは、私共の絶對に承認することが出來ないのである。

（ラヴレイ）

この七月に開かれた臨時議會で奢侈關税引上の法律案——外國から輸入される奢侈品には、十割即ち原價と同じだけの關税を貿易港にて引揚の際に課すること——が通過し、まもなく實施せられる事になつた。

この法案の目的は、第一國民の奢侈贅澤を矯正するため、第二輸入超過を防ぐため（わが邦の輸入超過は實に、昨年度五億三千萬圓、本年度上半期六億六千萬圓である）ためである。この法案に對しては、贊成するものもあり、反對するものもあり、實施後の効力に就いても、悲觀するもの樂觀する者等、いろいろである。

# 無産婦人に

山田やす子

朝夕の通勤時間の省線電車内の婦人と云ふ婦人は皆事務所、會社、商店通ひの婦人のみてある。おなじ時に、市内の中央に向つて、男女は、電車の乗換に死物狂ひの雑沓を極めねばならぬ。

其の前に、市内の割引電車を用ふる勞働者の男女は、生きるための競爭に勞れねばならぬ人達てある。いまに斯る男女は、もつと〳〵都會にも地方にも一杯になつてくるとおもふ。

一體どうして斯うなつたかと云ふと、手近な例で云へば着物！これは、金さへもつて行けば直ちに買へて着ることが出來る。昔は一枚の着物も、家内中で綿の木を作る、それを婦女子が糸に紡ぐ、一方、染料は植物から絞り取る、染める、織機にのせて織る、裁つ、縫ふといつた風に、一切合切が婦女子の手になつて、朝から晩まで忙しく家族全員のために夜も日も之れ足らず、食物も其の通りであつて、其の代り働いてさへゐれば喰ふこと、着ることには心配はなかつた。一年位はどんな家でも、働いてさへゐれば喰ひ殘して持ち越すことが出來てゐた。其の自農生活時代から手工業時代に入つた。

此の時代に入つても、職人は親方となれば生活も有福に、内弟子をかゝへて氣位ひもあり、内弟子は又親方となれる。金と物品の交換が出來て、生活は大した問題なしにやつて來られた。ところが、科學

の進歩と共に蒸氣電氣の發明あつてより、手の仕事は機械に奪はれてしまつた。

此機械を据付けるには莫大な金が要るので、金を多く持つた者が機械を買ひ入れ、一大工場を營むことになつた。こゝに資本家といふ階級が出來たのである。

一方鑿と鉋と腕の冴へとをもつてゐた職人は、そんな道具は廢物となつてしまつて、勞力を資本の機械奴隷として工場に入らねばならなくなつた。こゝに勞働力を資本とする勞働者階級が生じた。

其の上仕事によつては、紡績の如く女子でも出來ると云ふ種類もあつて、男子よりも女子を低い賃銀て使用しやうと云ふことになつて來た。こゝに於いて婦人勞働者が出來て來た。

◇

成程一家內に於ける婦人は、昔に比すれば食物衣類のことなどで手が省けて、確かに時間があまつて來て怠屈になつて來た。そうかといつて、男が工場に入つて働く樣になつてからは、一人が喰つて行けるといふことに賃銀の限度が置かれてあれば、多勢のものが喰つて行くことが出來なくなつて、貧乏は附き物となつて來た。この機械のもたらした事情を產業革命と云ふが、此結果、婦人が勞働市場に出て働かねばならなくなつたのも第二の原因である。

機械の文明は便宜と物品の潤澤とをもたらし、ます〳〵文明を華かならしめたが、之を購ふには高價である。現に自分が其の物品の生產にあづかり乍ら、勞働者は一つも其の効果を受けることが出來ず、製產にあづからなかつた者がます〳〵恩澤を蒙むると云ふとんでもない現象になつて來た。之れには策の施すべきところは明かにわかつてゐるが、社會各人の自覺と覺悟なしに策を施すことは、いたづらに混雜と浪費に困惑するのみである。機械のもたらした文明を逆戻しにして原始に返すわけにはゆかぬので



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

進展の形を其儘にして、整然たる秩序のうちに取るべき方針がある。

其のまへに、私が求めたいことは、諸姉は無産者である、といふことの自覺である。東京では、工場といふ圍われた世界に住んでゐる婦人たちの樣子を云ふよりも、銀行會社等に働く事務員の方が適切であらう。朝夕の通勤時間は、事務所通ひの婦人の派手なメリンス浴衣の、色彩も模樣も餘程進んで來た。近頃の婦人の姿はたしかに都大路を賑はすものである。ある人たちは出來るだけ美しく、出來るだけ人目を引く樣にと心がけてゐる。第一、女事務員の美を、會社、商店の營業繁榮策に利用してゐる惡辣な根生にうまうまとはまり込んでゐる人達、顏には丹麗に白粉が付けられても、足袋の鼠色なるにおかまひなしの不調和の如く、美しい着物と懷中との不調和には敢えて不審が起らぬものか、如何に消費せんかゝ職業婦人の中心目的である。人一人が喰べて行けない賃銀を投げつけられても文句もなければ、さらぬだに細つて行く親のすねをかぢり、或は性的特權を金に替へる。何故に貧乏なるかに一向見當がつかない。若いうちのカラクリの消費にソロソロ勞れた頃になると、純眞さを失つて結婚生活に入る。其の後は文字通りに豚同樣の生活がはじまる。生活の刺戟を受け樣ともせねば、水道傍會議に時を移すか此の暑い頃ならば、帶とけのだらしなさで乳に子供をブラ下げて寢て暮す。それでも〳〵、大都會の町通りを事務所通ひをした元氣はどこへやら、これでは六疊一間でもホームにはなりさうもなく、とても社會の若き健全性は望まれさうもない。

◇

衣飾つて女中の一人もつれて町をねり歩るく夫人や令孃をみると、俗な言葉で云へば蔭がうすい人だと云ひたくなる。斯う云ふ人が、此の先き幾年贅澤に身を置くことが出來るであらうか。此の人たちも

幸ひにして職業婦人までこきおろされて來ねばならぬ人たちだとおもふ。職業、勞働につく婦人が、決つして自分の職業、勞働をかくす必要はない。勞働意識にめざめる、無產者意識にめざめることは、其の人を新しい世界に導くものである。

　何故に貧乏するのか、何故に働かねばならぬか、の原因を知つたならば、もつと自己意識に醒めて、貧乏の中にはつきりと暮し方があり、又、貧乏に苦しめられて居る無產者が一つとなつて、如何に社會を向けて行くべきか、それには、組織運動の必要も當然として認められねばならぬといふことになつて來る。貧乏は此の儘にしてゝは足は洗はれない。然らば、無產者が生きる特權は如何にして受けるか、如何にして敎化を受けるか、病人はどうなるか、子供は如何に保護されるか、と自意識にめざめて無產者が結ぶとき、策は施せる。惜しいかな、特に婦人に未だ自覺が足りない。


## 『テウトリアルクラス』の開設

聯合婦人會勞働部では、去年の暮創立して以來婦人勞働運動指導者の養成と一般勞働婦人の敎育運動とを主眼として、婦人問題、勞働問題に關する講座を繼續して來たが、もつと講座を有効にすると同時に、その研究を階段づけるために、テウトリアルクラスを開設する事にした。

| 科目順 | 題目 | 回數 | 講師 |
|---|---|---|---|
| 第一科目 | 近世經濟思想史 | 四回 | 藤井悌氏 |
| 第二科目 | 社會立法（勞働法制 社會政策） | 四回 | 交涉中 |
| 第三科目 | 勞働組合及勞働組合運動 | 四回 | 交涉中 |

場所　牛込區原町三ノ八七成城小學校

期間　九月十二日より十二月十二日迄（每週金曜日午後六時―九時）

會費　全科目三圓、一科目一圓、一回參拾錢

定員　五十名、申込締切九月十日

東京市大久保百人町三五六
東京聯合婦人會勞働部




Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

職業婦人の立場から

# 私達は男と同じ様に働いてゐる

入江いま

わたくしは、このごろの本を讀んで居るとほんとに變な氣がします。女が男と同じ様に働くのが善いとか惡いとか、女も男と同じ様に働く様にならねば、男女同權なんて云つても實行は難しいとか、女が次第に、同じ様に世の中に出て働く様になると、女にも參政權を與へねばいけないのとか、わたくしら百姓のつまは、むかしから、夫と一しよに野に出て働いてゐます。わたくしたちは、いつも、男と同じ様に働いてゐます。仕事をわけてすることはありますが、男だけが働いて、女だけが遊んで居るといふ様なことは、夢にも知りません。一つたいどこかにそんなところがあるのでせうか、わたくしは、あまり世の中のことは知りませんがどこへ行つても、そんなのんきなところは無いと思ひます。それは名分、わたくしたちが仕事をわけてすると同じ様に、たゞわけてして居るだけだと思ひます。それを、得手勝手な男は、まるで自分だけが働いて、女は遊んでゞも居る様なことを云ふのです。そんなことは、わたくしたちの、百姓の家でもよくあります。夫が夜なべのなわをなつてゐる、時わたくしが、ねころんで子供に乳をのませてゐる時なんか「また子供にかまけてよいねをしてゐる」とかなんとか、きつと小言が出ます。しかし、そんなことぐらいには、わたくしたちはまけてはゐません。ひるのひなか、暑いさか

りに野て一しよに働くときのことを思へば、男ひとり働いて居るとは、たれも思ふわけがありませんもの。わたくしには、あんな本に書いてあることも、よく考へて見ると、これと同じ様に、男の人の勝手な見方からだとしか思はれません。今の女のよむ本て、女の人の書いた本がどれくらいあるのでせう。やつぱり、わたくしたちは、そんなことまで男に取あげられて居るのです。つまり、世の中のつらいくるしい仕事は、同じ様に、いや、男よりも重い位にわけてくれながら、その外の權利や、樂しみは、皆男が取りあげて居るのです。そしてこの頃になつて、男女同權だの、婦人參政權だのといふことも、あんまり泣くとうるさいから、ごむのちまめでもふくませておけといふぐらいの程度で、わたくしたちに匂ひだけかゞしてだまして居るのです。みんな男のわがまゝです。身勝手です。わたくしだちは、子供が、母の乳を自分のものとして要求する様に、わたくしたちの利權を、いかなる方面でも、自分の手に取り戻さねばなりません。そのことはわたくしたちを、奴隷の狀態から救ふだけでなく、男をその深い〳〵墮落から救ひ上げることにもなるのです。

## 一歩づゝ

鳥居慶子

職業婦人！　そう申しても私は自分の屬してゐる範圍の事務員、タイピスト等より外知りません。又同じかう云ふ様な人達の中にも色々ありますでせう。婦人の獨立と云ふやうな自覺からなられた方もあるでせうし、又今日の生活の爲に止むなく、働きに出られる方もあるでせう。けれどどちらにしても、現代の社會に於ては、婦人が外に出て働くと云ふ事は、大變に苦しい事です。まして家庭を持つてゐる婦人に於ては、全く慘めです。

結婚前の女子ならば、彼女等はこれからまだ〳〵

勉强もしなければならないのですのに、一日の務めの疲れは彼女等を勉强に導く事は出來ません。男子と違つて女子は十七八にもなれば、自分の衣類の洗濯、裁縫等をしなければなりません。そしてそれを爲す時間は、夜のわずかな時間が與へられてゐるのみです。まして家庭を持つてゐる女は、その家族全體の用事があります。それて之等の婦人は、普通の家庭の主婦としての家內勞働と、職業勞働との二重生活をしなければならないのです。彼女等は朝の出勤時間迄と、歸宅して床に就く迄との間に、家庭婦人と同じだけの仕事を——炊事、洗濯、裁縫、掃除等いくらしても爲しつくされる事のない樣な之等の雜務を爲てしまはねばならないのです。それて、夜はどうしても晩く寢る事になります。睡眠時間は五六時間を出ません。どうして彼女等の健康は保たれるでせう。母性保護も何もあつたものではありません。今の社會情態に於ては、もし子供ても多く、家の用の多い爲に外に女が出なければ、私共はやつと生きてゐると云ふだけの生活しか出來ないので、まかり間違へば、飢えなければならないのです。男子は私共婦人より余程ましです。家內勞働がないだけ。彼等は、婦人の家庭勞働に對しては何等の報酬をも——精神的にも——拂込まうとしません。

又、同じ雇ひ人でありながら、同じだけの仕事をしても、賃金が女子の方が劣つてゐます。勿論一般に見て女子の頭は、男子のそれより劣つてゐるてせう。けれども、それは永い間女子が學ぶ事を拒ばまれた結果と、現代に於ても未だ一般に行はれてゐる敎育の男女の不平等の爲です。そしてかうした二重生活をしてゐる婦人に、どうして勉强するひまがあるてせう。

家庭の中の仕事を簡單に、文化的にと叫ばれます。けれども何をするにも金が要ります。ガスのない處で石油コンロを買ふにしても、洗濯物を洗濯屋に賴



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

むにしても、私共は出來るだけきりつめた生活をしなければならないのですもの。私共はどんなに忙しくとも、洗濯も裁縫もしなければなりません。そして私共は、社會に投げ出された時、家事をする爲に女中を置いたり、洗濯物は洗濯屋にやり、裁縫は仕立屋に持つて行く事の出來るそれ程澤山な賃金を貰ふ事の出來る職業につく事は出來ないのです。

智識階級の婦人――小ブルジョアの婦人達は叫びます。職業を持つ事は尊い。自分の糧を自分で取る事は婦人を解放に導く第一歩だ！と。勿論そうです。けれども私共は、今かうして職業を持つて見ますと、いつまでも、その讃辭の御調子に乘つてはいられません。私共はあまりに慘めてす。私共の健康は日に／＼惡くなつて行くより外仕方がないてはありませんか。私共はどうすれば良いのてせう。社會と家庭の兩局面に二重生活をしなければならない現代過度期の女子、資本主義の産物。それは自分一個の、又は一家庭の問題てはありません。婦人全部社會全體の問題です。

私共は、慘めな同性の爲に、現在の社會制度を、根底より早くくつがへして、新しい、合理的な社會を作らなければなりません。男子から解放されると同時に、又同じ現代の社會制度の欠陷に苦しみつゝある無産階級の男子と手を取り合つて、力强い運動を起したいと思ひます。又私共は新しい社會を目ざしながら、目前のかうした慘めな問題を、一刻も早く、少しづゝでも解決したいと思ひます。

（七月廿三日）

## 彼女

深井利平

彼女はよく、男の先生方とも議論をしたりした。そして何々研究教授などにも、いつも進んでやつたのである。此の爲め同僚からは、中性だなどゝいは



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

れた。これは、餘り彼女が所謂女らしさを失つてゐたからである。といふのは、戀をしないといふ意味ばかりではない。

彼女の家は貧乏であつた。老ひた母と三人の弟妹は、彼女の收入によつて命を續けてゐたのである。彼女の父は町長であつたのだが、政治に凝つた爲め、選擧には必ず尨大の運動費を支出して後援をした。そして、其の當選を見るのが何よりの樂しみといふよりも、安價な誇りなのであつた。之れが爲め家計は不如意となつた。其の弱點へつけ込んだのが北海道の山林拂下げをする爲めの詐欺團であつた。

正直一徹な父を、甘言を以て輪に輪を掛けて釣り込んで仕舞つた。そしてわずか半年と經ないうちに、豫定より材採が不便で、搬出の爲めに費用が要するので結局五十萬圓の損失といふ至極簡單な話である。

昔名主の家柄で、町制施行以來代々町長の職を取



つてゐた彼女の家も、今では棟割長屋に住まなくてはならない身分となつた仕末だつたので、其後父は煩悶！　悲觀——殆んど狂死の如くにして黄泉の客となつた。

彼女は此の時女學校の四年で、まう卒業間際であつた。卒業と同時に町の小學校に勤めたのである。足掛け七年、男優りの負けず嫌らひの彼女の性格も、こうした境遇から餘義なくせられたのかも知れないが、彼女は感情的に研究する熱心家であつた。

二十五歳の彼女にも春が來て——晩春——ゆかんとする春であつた——

其の町の資産家の○は赤門出の文學士で、趣味の爲めに町の青年指導を目的として、青年團の長として町の人氣、青年の趣望を一身に集めてゐた。○は此の春愛妻を失つて淋しく生活してゐたのであつた——戀愛は渦捲いた、物凄いまでに彼女との間に。

二人は結婚した。けれども、戀愛も結婚も社會か

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ら許された。色めがねでは見られなかつた。女教師――職業婦人として萬難を排して正しく進んで來た彼女、生活苦を體驗した彼女は良妻であり、賢母の實を發揮するであらうとの期待を、社會の人から受けた。

× × × ×

彼女は裏切つた、と人々は口々にいつた。婚家には姑も居た。弟妹もあつた。因襲と傳統があつた。そして所謂嫁の定冠詞を彼女につけて縛つた。

× × × ×

彼女が都會に出て事務服を着けたのは其後わずかの後であつた。(一三、八、三)

女性は種族の根幹として、男性同志の激しい競爭のまん中に在つて、常に自若としてその成りゆきを眺め乍ら、自己の種族にとつて最も有利な男性を選ぶことを怠らぬものである。自然は、男性に向つてはたゞ『授精せよ、異質を交叉せしめよ』と命令するのであるが、女性に向つては『選べ、最もよきものを選べ』と命令する。女性は斯うして、本能的に、自己の種族にとつて最も價値ある男性をえらぶのである。

# 眞晝の都會

中村美子

交番のかたへに高き夾竹桃
しごろが影の屋根にうごける。

ものみなのおもかげ濃しまひるの街
佇ちつかれたる巡査がひとり。

はつ〳〵にこぼれさす陽や荷馬車の馬
目閉ぢ細めつ木のかげにして。

夾竹桃うは葉はかぶるすなほこり
葉すぢま白く倉庫かげにして

ものなべて音立つる中にまひるの街



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

工夫が叩く軌道のひゞき

けならべてかく汗なれやはだら汚れ
しやつにしるけき電車の工夫。

樹のかげにかゞまりいこふ中やすみ
手拭をもて風あほる工夫。

まひるみちよだれをたらしゆく牛に
そひつゝ飛べる蠅あまたあり。

ショウヰンドの鏡にうつる眼のくぼみ
あよみつかれてしどけなきわれ。

舗道の白くかはける路樹がもと
犬のいばりのぬれのしるけし。

# 我國の富と人口と

## ——農村問題に就いて思ふ——

稲宮又吉



### 一

此處に一軒の家がある。此の家は家族が馬鹿に多いばかりでなく、年々非常な勢で家族が増加して行く。而も此の家は、敷地も狹く疊數も僅かで、臺所から物置の隅に迄人が寢てゐる始末である。

此の家はそればかりでなく、代々大變貧乏で、第一、家族が着るべき衣服の原料が皆無である。食物もまた足りない。自分の家の手入をするに、針一本の末に至るまで他家から貰ふのである。素より衣食住に大切な是等の原料は、相當の代價を拂はなくては、只ては手に這入らぬ。而して此の家では、僅かに御カイコ様と云ふ虫の巣を賣つた金で其の代價を決濟してゐるが、毎年々々不足勝ちで、概ね借金を以て凌いでゐるのである。

この貧乏な家に生れて、澤山な家族は食ふものも着るものもなく、手足を延ばして樂々と寢ることも出來ぬにも不拘、自分ばかり風通しのよい處に寢そべり乍ら、終日何もせず遊んで暮らしてゐる人があつたら如何てせう。また家族の者が汗水になつて働いて來る金を、譯もなく浪費する者があつたらば如何でせう。恐らく此の家には、風波が絶えまなく起てせう。此の家を一つの國に例えれば、是が即ち階級鬪爭である。之が即ち勞働問題である。此の場合あの男は親代々遊んでゐるのだから差支はない、あ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

れは元來浪費者であるから、其儘にして置くべしといふ者があつたら、それは白痴でなくば、人道を毒するものであらう。如何に保守的な國でも、一家に於て、家族の或者のみの特別なる逸樂を認める邦はあるまい。人が集つて家をなし、家が聚まつて邦をなす以上、人に於ていけないとせらるゝ處は、家でも邦でも同じことだ。然るに現今は、一家の中に於て之を認めず、邦の中で之を認めてゐる姿であるから、此處に可なり困難にして、不都合な問題が惹起するのである。

話は元へ戻るが、我等は此の貧乏の家に生れて、此の場合此の浪費者と、懶け者を制止するに盡力すべきか。それとも此の家を富ますことに努力すべきか。人體に於ける寄生虫の如く、之によつて人間の體力が弱るものとせば、速かに之を驅逐すべきであるが、元來この人間が弱いものとせば、驅虫のそれより前に、體力の増進に留意すべきであらう。迂つかり虫下しを呑ませると、驅虫以上の打撃を人體が受けることがある。

人體の弱いのは、寄生虫のみによるものであると云ふ論者がある。之は現在に於て、農村に小作問題を絶唱してゐる人達である。乍然、私は斯様に思はない。寄生虫干係も多くあらうが、本邦の如きにあつては、根本は體力の薄弱にあると思ふ。如何に日本なるものゝ體力が弱つてゐるかを、些か煩瑣であるが、數字で具體的に擧げて見ませう。

## 二

之を一番端的に説明し得るものは、國富と人口、及び國民所得であるが、之を一々掲記してゐては問題が多岐に渉るから、是等は他日に讓ることゝして方今問題の最も喧しい、而も國民の大多數である農民に就て説明して見たい。

本邦農民の總所得は、大正十年に於て、三十二億六千萬圓である。此の中、二十二億圓は米及麥であ

る。殘り十億は、繭と、食用作物、果實、其他である。而して之を收得すべき農家の戸數は、同年に於て、五百四拾五萬五千戸であつて、平均一戸の收入は、六百圓弱である。本邦に於ける一戸の世帶人口は五人であるから、一年一人の收入は、百二拾圓、一ヶ月拾圓である。此の中から公租公課と、肥料代を減ずると、一人當り一ヶ月拾圓にはならぬ。果然本邦農民は、其總和に於て破産してゐるのである。今日、農村に於て、地主小作を云爲してゐる人達は、破産會社の清算人的立場で、其精算分配の不公平を論じ得るかも知れないけれ共、農民全體の幸福を由來するものでないことだけは確實である。

敢えて地主を辯護するではないが、海坊主の樣に見える大地主は日本では非常に尠なく、地主百人につき五町以上を所有してゐるものが、一人六分である。而して二町以下のものは九拾五人といふ割合で、實數から行くと、二千七百萬人の百姓中五町以上の地主は八萬八千人、而も其全所有面積は八十萬町に足らず、五町以上の大地主は平均九町位にしかなつてゐない。故に、大小地主から全部土地を返して貰つても、之を國民に分けると、一人に就いて、

田――五畝、畑――四畝

宅地――二十一坪、山林――一反四畝

といふ譯である、一反の田から上田で米が六俵取れるが、本邦の作物平均では、二石である。一人當り五畝の田では、米は一石しかとれぬのである。

之を見て日本の國が狹いからと直ちに悲觀されるかも知れぬが、それは早計である。なる程狹いには違ひないが、その狹い國にゐながら、一面に耕地を開拓せぬのである。試みに諸外國の總面積と農用地との比較をして見る。英國は總面積の八割一分、伊太利は七割一分、佛蘭西は六割六分、獨乙は六割三分であるにも不拘、日本は僅かに一割八分しか農用地にしてゐない。何故狹い國の日本が、僅かに一割

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

入分しか利用せぬのであらうか、之が利用如何によつては、農村問題も、暫らくは相當に扱ひ得るのである。而して、前述來の諸問題は、概ね其核心を人口に由來してゐるのであるが、本邦は明治四拾二年より大正九年迄の間に、人口は七百六拾六萬人の增加を示してゐるが、之に對して農產物は比例增加してゐない。生產が比例しなければ、價格も之に從つて騰貴すべきであるが、斯樣なる事實がない。是等が綜合されて、農村を初め今日の社會問題をして、一層險惡ならしめてゐるのである。

## 三

人口が、十二年間に七百六十六萬人も自然增加してゐるにも不拘、之に對する食料品、及之を生產すべき農用地が增加してゐないのは、農民が增加してゐないからである、現に同期間に於ける農家の戶數は、僅かに六萬千戶弱しか增加せず、農民は三十萬人位しか增加せぬのである。農用地が增加せぬから、從つて農民の居場、働き處がないといふ循環的の不始末が出來上るのである。農家に生れる農村の子弟は、悉く驅せて都市に赴き、此處に於て失業、住宅、保健等、あらゆる困難な問題を起こし、而も地方をして愈々萎微せしめるのである。非常な率を以て增加するわが邦の人口の悉くが、都市に向つて集注されつゝあることは、いろ／＼の問題の解決を愈々困難ならしめてゐるのである。

之を要するに、わけて貧乏な本邦の如き國にあつて、二三の人達が贅澤することは、實に容すべからざる罪惡である。決斷といふものより、寧ろ離れて、德義の上から飽く迄匡正する必要がある。けれども、內部的な是等の問題よりも更に主要なる事項は、此の總體に於ける貧乏を如何に處理するかと云ふことである。思ふに今日、此の如き形勢を來した總ての原因は、從來の弊制と惡政治の罪である。今日の如く、人材、學術、產業、金融、權力等あらゆるものを中央に集中せしめて、地方は單に中央に於ける野心家の道具に過ぎない有樣ではないか。先づ第一、之より革新するのでなくては、上記本邦に於ける諸問題の解決は至難と思ふ。



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 織物のはなし

## ——浴衣一反の原價幾何——

### 出來上るまで

綿織物を組織してゐる綿糸は、御承知の通り綿花から紡みあげられるのでありますが、この綿花は、吾が國には殆んど收穫されず、全部印度や亜米利加等の世界的産地から輸入されてゐると云ふも過言でありません。此の綿花を、糸に紡ぎ揚げ、織つて私たちの用に立てる迄には、非常に多くの分業的な工程を經なければならないのであります。その工程の大略と原價の割出し方とを書いて、皆様の參考に供したいと思ひます。

さて綿花は、大きな箱の様な形に壓搾して荷造された上、神戸とか大阪横濱などの港から陸揚げされて、紡績會社に廻されます。そこでまづ混綿部に送られて、それ〴〵その會社獨特な配合即ち好い綿と惡るい綿とを適宜に混合されます。それから自動的に送風機の中に運ばれて、風の力に依りて大きな一抱もある程な筒の中を、丁度無數の雪片を飛ばす様に、吹雪のやうになつて打綿機に運ばれ、それから「綿打ち」と稱する工程を加へられて、平らびたい綿に「伸」されて、一本の棒に徐々に卷き取られてゆくのであります。これを「ラップ」と云ひます。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「ラップ」は、「カード」と云ふ非常に精功な機械に運ばれて、その機械の內部で搔きむしられて、一旦霧か塵芥の樣に細かい細かい形となり、又集められて太い柔かい綿の捧狀となつて、「ケース」と呼ばれる筒の中にひとゞりてに巻き入れられてゆきます。

それから之れが練篠機とか梳綿機とかに運ばれて、長くつゞいてその綿に「撚り」が掛け得る程度までの工程が加へられます。次に粗紡機に掛けて「あらかた」の撚をかけ、又精紡機にかけてそれ〲糸の太さに應じて、幾度も〲「撚り」をかけ、始めて完全な綿糸となるのであります。

### 相場表の單位

これを相場で八百四十碼だけの糸の長さの枷にするのであります。その枷を拾個集めて「一ト撚」とします。又「一ト撚」を糸の太さに應じて、目方一貫二百匁に相當する枷數を以て「一ト玉」とします。荷造場ではこれを二拾玉宛莚包として半梱とします。半梱を二個で一ト梱と云ふのであります。普通綿糸は、この半梱の三個即ち一ト梱を單位として取扱はれてゐるのであります。新聞などで見る相場表などもこの單位によります。

これで綿花から綿糸になるまでの大略の工程が濟んだのでありますが、更に之れを織物に組織するには、機業家は、その織物の性質に應じて、第一番に糸の種類を撰擇します。

綿糸を大略して單糸と双糸との二種とする事が出來ます。單糸とは只糸に撚を掛けたるもの、双糸とは單糸を二本撚り合せたものと云つた方が最も判り易いでせう。單糸にも双糸にも、その太さの種類を定むるに「何番手」と云ふ名稱が用ひられてあります普通、織物に用ゆる單糸は「拾二番手」から「四拾番手」までの間の物であります。

| 番手 | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 單糸 | 10 | 12 | 16 | 20 | 22 | 30 | 40 | 60 |
| 双糸 | 32/2 | 42/2 | 60/2 | 80/2 | | | | |

双糸では「三拾二番手」から「八拾番手」位のものが多く用ひられてあります。

織物の織り方には、綾地朱子地、絽織、縮緬織等非常に多數の種類がありますが、今はあまり煩雜な專問的な説明はさけて、普通吾々が一番多く目にしたり手にしたりする、例へば浴衣地の樣な織物即ち平地織の話だけに定めませう。

糸を織機にかけて織り上げるためには、織つてゐるとき開口裝置による糸の摩擦から來る切斷を防がねばなりません。之れには、經糸に或る程度の硬直を加へる事が必要であります。普通之れには、薄い澱粉質とか膠質等の糊付けをします。「枷糸」のまゝ糊付が濟んだら、之れを糸繰機にかけて枠に取ります。枠を集めて、織物の幅に相當する糸數だけ織物の長さに應じて整經機によつて糸を調へると、「干卷」と云棒に卷き取つて織機にかけます。織機にかける以前に、豫め「綜絖通し」と「筬通し」との二工程を經なければなりません。綜絖に通した經糸を、開口運動裝置によりて奇數と偶數とに呼ばるゝ經糸を、交互に上下運動せしめて杼口を作つて「杼」の中に入れてある緯糸を通す。こんな運動を繰り返し繰り返して漸やく布が出來上るのであります。以上述べた事は、只布を織ると云ふ單純な行程のみに止まつてゐるので、此の他いろ／＼な、意匠とか、染色、仕上どと云ふ加工をしなければならない事は勿論であります。

## 元價の割出方法

扨吾々が、普通市場の呉服店で反物を買ふ場合に、一體之れは「幾何」の元價で出來上るものであらうかと云ふ事を知る事が出來たら餘程便利ですが、之れは專門家でなければ中々至難な業て、所要原糸を算出して、之れに綿糸の相場を掛けて計算するといふ事は、之れに精通しない素人には不可能な

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

事であります。然し新聞などの經濟欄に於て、綿糸の暴騰とか暴落などの記事を見受ける毎に、それはどの位の程度の高下てあるか、位の事は知つて置き度いものだと思ひます。新聞などに、今日は綿糸の相場は、例へば二百九拾圓とか三百圓とか書いてあるのは、「綿糸二拾番手一梱」を標準としての相場ですから、浴衣地などは、大多數二拾番手か拾六番手位で出來ているものですから、之れをあてはめて考へて見ると、大略の標準が出ると思ひます。

假りに綿糸相場が三百圓とすれば、之れは二十番手一梱四十八貫匁の價ですから

$$\frac{300\text{圓}}{48\text{貫匁}} = 1\text{匁ニ付如何程カ}$$

即ち綿糸一匁に付幾何かとの價格が出ますから、浴衣地一反の目方に掛けて、是れはドノ位一反に付元糸が上下したかゞほゞ想像し得る筈であります。浴衣地なれば、一反の織工賃は七錢位て、染色料は三分の一の染糸と見れば大丈夫ですから、一貫匁に付一圓五十錢位であります。

$$(\text{反物ノ目方}) \times (\text{綿糸1匁の價}) + (\text{織賃}) + \left(\frac{\text{反物の目方}}{3} \times 150\text{錢}\right) = (\text{浴衣地一反の價})$$

と大略なりますから、これだけの事を考へて値段と見双べた上て買へば、さう大して「これには欺つた」などゝいふ失敗はありません。但し、絹綿交織、人造絹糸を織り混ぜたものゝ絹糸と紡績糸とを混ぜたもの等は、その精巧なものに至つては、専問家ても肉眼で鑑識する事が六ヶしい位てありますから、想像も及ばない程暴利を貪り取られてゐる事が多いのてあります。而も、近來の流行は、この種のものが最も歡迎されてゐるのですから妙なものです。

# 國際婦人運動

## 獨逸

職業婦人

| | | | |
|---|---|---|---|
| 一八八二年 | 五五四二五一七人 | 全勞働者の | 二割四分 |
| 一八九五年 | 六五七八三五〇人 | 同 | 二割九分 |
| 一九〇七年 | 九四九二八八一人 | 同 | 三割 |

獨逸に於ける共産黨婦人運動

共産黨婦人の數は約三萬人。機關雜誌は「共產婦人」であつて月二回發行される。其發行部數は二萬七千五百。其他共產黨日刊新聞の殆んど全部は、共產黨婦人附錄を有してゐる。共產黨帝國婦人書記局が宣傳を指揮してゐる。

獨立社會民主黨が社會民主黨と合同して、同社會主黨となつた以前即ち昨秋前に於ける獨立社會民主黨の婦人數を擧げれば一九二一年の調査に於ては三萬の婦人、全黨員の一割四分、その機關雜誌は「戰鬪婦人」二萬部月二回發行。

社會民主黨(合同前)一九二一年に於ては婦人の黨員十九萬二千人。全黨員の一割六分。其機關雜誌は「平等」月二回發行一萬六千刊行。

ブルジョアの婦人運動の各團体の聯合せるものを「獨逸婦人團體聯合」と云ふ。其會員數は一九二〇年に於ては八十八萬二千二百十九人であつた。機關雜誌は「婦人」及び「國家に於ける婦人」

## 墺國

社會民主々義運動。機關雜誌月二回發行「勞働婦人新聞」其發行部數一九二一年十萬二千。

共產黨婦人運働は未だ力弱い。婦人黨員約千五百人。共產黨機關紙「赤旗」の中に、每月二回共產婦人の附錄が出る。

## チエツクスロバーク

共產主義運動。チエツクスロバーク國の共產黨婦人運動は强大である。既に一九二〇年十二月のストライキに參與してゐる。一九二一年以來、チエツク種族共產黨婦人と獨逸種族共產黨婦人との合同が行はれた。一九二一年にはチエツク種共產婦人三萬三千九百十一人、獨逸種八千人が合同した。

社會民主黨分裂前は、共產黨は十二萬人の婦人黨員を有してゐた。同國には、チエツク、獨逸、スロバーク、ハンガリア、ロシヤ等の各種族が混同してゐるから、民族的に、言語的に、文化的に其宣傳は少な

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

からず困難である。

機關雜誌は「共產婦人」月二回發行、獨逸語。其他二つのチェック語の雜誌がある。

社會民主々義運動。其機關誌は「社會民主々義婦人。」

## スイス

職業婦人。一九一〇年には五十萬人、全勞働者の二割七分。

共產黨運動。スイスに於ては初期に屬す。黨員はドイツ側スイスに於ては六千五百人の中婦人黨員は千人。ゼネバに於ては三百人中婦人五人に過ぎず。

共產黨機關新聞は四つあり、婦人附錄が時々出る。

婦人社會民主々義運動は盛であるが、未だブルジョアの域を脫しない。

## フランス

職業婦人

| | | | |
|---|---|---|---|
| 一八九六年 | 六、四二一、三三人 | 勞働者の | 三割三分一 |
| 一九〇一年 | 六、八〇四、五一〇人 | 同 | 三割四分八 |
| 一九〇六年 | 七、六九三、四三人 | 同 | 三割九分 |

一九二一年に於てはフランス女子の半數は職業婦人となつた。之を種類別にすれば、

（一）獨立經營者（二）農夫（三）紡績女工、（四）戰爭以來金屬工業。

共產黨運動。共產黨婦人書記局は一九二一年秋に成立した。フランス人が婦人問題に對する小ブルジョア的思想を有する爲め此運動は多くの困難を伴ふ。共產黨婦人の實際運動としては、反軍國主義ロシヤ救濟、選擧權等の問題である、機關誌は「勞働婦人」月二回發行、及び「人道」紙の中に於ける婦人附錄、又地方に於ける新聞「國際」の婦人附錄。

ブルジョア的婦人運動。主として平和主義。

## イタリア

一九一一年に於ける女子の總數は千七百六十四萬九千六百八十七人。其中十歲以下の少女三百九十五萬五千五百五十三人。

戰爭中には婦人の革命的運動があつた。

共產黨運動は、一九二一年より開始、現在は其初期にある。機關誌は「鬪爭」月二回發行、一九二二年三月以來七千發行、豫約讀者一千人。運動としては選擧權運動。

伊太利には千百萬の無產者あり。其中六百萬が婦人であること及び宗教の影響强きことは共產黨運動の障害である。農業プロレタリア多し。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

社會民主々義婦人運動も月二回發行ベルギーの機關誌を具ふ。

## オランダ

社會民主々義婦人運動の機關は「社會民主々義クラブ聯盟」である。即ち百六十六人クラブの聯合である。機關誌としては「プロレタリア婦人」月二回、一萬五千部發行、其他「アムステルダム國民新聞」中に婦人附錄。

共產黨婦人運動。以前は「革命社會主義婦人團體」があつたが、それが解散して、其中より共產主義婦人が共產主義運動を開始したそれは一九二一年十一月である。其機關誌は「前使」月二回發行、千五百部、

## 英國

職業婦人　一九一四年三月には七百二十七萬七千人
一九一八年十一月には四百九十三萬六千人
一九一九年十月には四百十六萬千人

又、之に對照する爲めに當時の全勞働者數を擧げれば

一九一四年には　千三百八十八萬六千人
一九一八年には　千三百九萬五千人
一九一九年には　千四百二十三萬三千人

勞働運動「勞働黨」の中に一九二十年以來婦人部設けらる、多くの雜誌あり、

例へばスコットランドに於ける「農業婦人」機關誌としては「勞働婦人」「婦人勞働組合會員五萬人

共產黨婦人運動。其初期に屬す

ブルジョア婦人運動。フランス革命の時にすでに文學的に開始してゐた。一八六七年に「婦人參政權團體の全國同盟」成立、一九〇三年に「婦人社會政治團體」其他多くの社會政治團體がある。

## スエーデン

職業婦人

一八九〇年　六七二、四八〇人　全體の二割七分三
一九〇〇年　七九五、一九六人　同　　二割八分三

農業婦人プロレタリア多し。農業勞働者七十六萬人中に婦人は三十四萬人。

社會民主々義運動の機關誌「朝」八千部發行。

共產黨運動。機關誌「赤い聲」月二回、四千三百部。又「政治」は特別婦人附錄を有つてゐる。一九二〇年の選擧に於て共產黨の投票數は九萬千て其中婦人は四萬人。

ブルガリアに於て一五〇〇人の代表者集會。

又其他の活動としては、無產者を絕無にする運動、賣春を無くする運動、赤い土曜日、赤軍に於ける婦人、婦人學校、子供及び母性

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

保護運動。

機關誌は「共産婦人」月刊、三萬部。其他日刊新聞七十四に婦人附錄及び一般婦人通信紙。

**ユーゴスラビア**

セルビアは主として家內職業婦人。

ボスニア、ガロアチア、スロウェニアは工業勞働婦人。

共産黨婦人運動。一九一八年一千人一九二〇年五千人。全共産黨員の一割六分。機關誌は「平等」一九一八年に於て五千部づゝ發行共産主々宣傳强大である。

反動派の爲めに共産黨が解散させられて新しく社會民主々義婦人運動が起つた。一九二一年二千人の社會民主黨婦人。機關誌は「女」其他「社會主義者」紙の中に婦人附錄。

**ハンガリア**

職業婦人

一八九〇年　二、二七三、八九四人勞働者全體の二割五分九

一九〇〇年　二、六六八、六九七人　同　二割七分六

ハンガリア共産黨の獨裁政治の處には社會民主々義周刊紙があつた。獨裁政治の期間中に婦人黨員の數も激增した。其後ホルティの內閣になり婦人黨員の投獄されしもの多い。多くの勞働運動例へば失業問題、賃銀問題に婦人黨員の參加が盛である。

**北米合衆國**

職業婦人は一九〇〇年に於ては四百八十三萬三千六百三十人であつた。多くは紡績及び衣服工場の女工（紡績女工は二十三萬千五百人衣服女工は六十七萬五千三百人）其他紙、靴、煙草工業等一般工業に於て。

共産黨員の總數は一萬人であるが、婦人の黨員數は不明である。

ブルジョア婦人運動。一八四〇年頃奴隷解放運動に始まる。一八六九年に二つの參政權運動團體が成立し、一八九〇年に兩者合同して「全國アメリカ參政權聯盟」となつた。其他婦人のキリスト敎的同盟及び慈善會など多い。

（稻垣守克）



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 問ひに答へて

芳子さんはもう既に二人の子供の母である。女學校を卒業した年の秋、懇望されるがまゝにその隣村の大資産家Ｓ家に嫁入をした。長女が今年から小學校に入學をしたのであるから、結婚をしたのは少く共八九年前であらう。その芳子さんが夫から捨てられた。今から三年ほど前に、ふとした機會で知り合ひになつた村の小學校の女教師と芳子さんの夫は道ならぬ戀に墮ちて、可愛さかりの二人の膝ちやんを捨て、芳子さんを捨てゝ東京に走つてしまつたのである。勿論二人が東京に走る前、夫は芳子さんを追ひ出して新しい愛人を家に入れるために、隨分いろんな目にあはせて芳子さんをいぢめたといふことである。然し芳子さんは、どうして可愛いゝ子供を殘して家を去ることが出來やう。芳子さんは、又、夫は熱病にかゝつたやうなものである。靜かに時期さへ待てば夫の病氣は必ず癒る。二年でも三年でも、夫が自分の懷ろに返つて來るまで、靜かに自分は待たう、と斯う決心をして、汎ゆる迫害に堪えて苦しい隱忍を續けて來たといふのである。

然し芳子さんは、「もうこれ以上の辛抱には堪えられない」といふのである。これまでとても、家賃とか地代とか利子とか一切の收入がみなその夫の方に領收されて行くので毎月何十圓かの生活費も夫から仕送られて來たのであるが、その金子を受取る度毎に、新しい愛人であるところのその女から、芳子さんは、どんなになさけない、口惜しい、惻罵を浴せられて來たことか。いつも、これもみんな子供のためと目をつぶつて、はやる心を撫で下し〳〵來たものだけれど、それは死ぬよりももつと辛い生き方であつたといふのである。芳子さんの夫は、今日では半ば永住的に、東京の郊外に地所を買ひ家を建てゝ、實家にあつた家具や衣類やその他金目のものをみな持出して行つたさうである。近隣に誇つたＳ家の豪壯な邸宅も三年間手入をしないで荒るに任せてあるので、壁も崩れたし、雨が降れば漏る個所も多い。

近頃では月々の生活費を貰ふために、五度も六度も督促をして御願ひ申したのちに、やつと犬にでもくれて遣るやうに放り出される情態であるといふ。その上芳子さんを苦しめてゐる事がなほ二つある。一つは、別居はしてゐるけれども同じ村にゐる舅と姑とが、はじめの内は隨分同情をしていたはつて呉れたのに、近



頃では息子を追出してまでも頑張つてゐる恐しい嫁だと云つて、始終やつて來てはいぢめてゆく。芳子さんの言葉に從へば、舅姑は息子の心が全然其女の方に移つてしまつたものならば、これからさきこの新しい嫁の世話にならなければならない老の身の事であるから、どうぞして今の内に歡心を買つておきたいといふので、私をいぢめたり、先方の女の家へちよい〳〵出入りして御氣嫌をとつたりするやうになつたのだといふのである。今一つ芳子さんに最も堪えられない事は、夫の心は全然芳子さんを去つてゐるにも拘らず、所用ありて夫が實家に立寄つて來るとき――それは一年中に三度か四度かにすぎない事ではあつたが――夫の性慾の犧牲にならなければならない事である。幸にしてその子は去年の秋に流産をしたが、芳子さんがさういふ間にも拘らず姙娠をしたとき、絶望のどん底でその胎兒を呪ひつゝ、一方、わが血わが肉を生命として生長しつゝある自分の子供を呪はれわばならぬわが身の淺ましさに泣き、もしや自分の懷ろに歸つて呉れるのではあるまいかと空しい希望に繋がれては、心ならずも許した自分の愚かさが恥しく、もう居ても立つてもゐられぬやうな氣持でゐるといふ、そして、もし今の内に決心をして出てしまはなければ、自分のやう

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

な弱い女は、又いつ夫の無理無態な要求を拒みきれないで姙娠しないにも限らない……

然し夢のやうに學校を出て、親の手から夫の手にと渡された芳子さんには、自活してゆく何の術もない。その上。子供嫌ひな夫やあの女にどうして愛する二人の子をあづけて出られやうか。自分一人さへ食つてゆく途を知らない者が、二人の子供を抱へて一體何處の軒端に食を乞うたらいゝのであらうか。これでもなほ貴女は、何事も子供のためだ、今暫く隠忍しろと云はれるのだらうか。さうでないなら、それなら、私たち親子三人が口に糊してゆくために、どんな途があると云はれるのであるか。私はそれが聞きたい――――芳子さんの手紙は大略かういふのである。

私はあなたの手紙をみて、現在の凡ゆる約束が强者を庇護し、弱者を苦しめる爲に何とよく用意周到に作り上げられてゐる事だらうと、何時もながら激しい義憤に燃えないではゐられませんでした。

あなたの舅や姑は二言めには『不平や不滿はあつても、何といつてもお前は立派にS家の本妻ぢやないか』といつて、籍までは出してないのだといふことを恩に着せてゐるとの事ですが、今の場合あなたにとつて、戸籍上の妻であるといふ事が一體何でせう。なまじひに妻である事のために縛られて、あなたは自由な氣持で新しい生き方を見出すわけに行かないのではありませんか。あなたにとつて本妻であるといふ事は、それは奴隷として生きてゆく事に外ならない。

それから舅姑の態度。私は今の世の中になほあんな風な考へ方をしてゐる人たちが威張つてゐて、而も、多くの若い女の人が、その犧牲になつてゐるのかと思ふと全く堪えられない氣がします。それにしてもあなたは今、現在の家族制度がわたしたち婦人に、とりわけて妻としての婦人に、何を求めてゐるかをはつきり知る事がお出來になつただらうと思ひます。あなたはS家から懇望されて嫁がれたと仰言いますが、あなたの夫はあなたの美貌を懇望し、舅姑はあなたの家の地位かあなたの從順を懇望した以外何ものでもなかつたに違いありません。あなたの舅姑にとつては、息子の嫁があなたで

あらうとなからうと、それはどつちでもいゝ事で、要するに老後親切に世話をしてほしいだけなのでありませう。その他いろ／＼悉しいこと、みな拜見しました。どれもこれも、女として生をこの世に享けたものゝ涙や憤りを誘はないものはありません。で、あなたはどうしたらいゝか？

芳子さん。

今の世の中では、女が自活してゆくといふ事は、實に並大抵の事ではありません。幸にしていゝつでを持つた者や、專門の高等教育をうけた極めて少數の人が、自活の途を與へられてゐるだけで、爾余の大多數の職業婦人は、僅かに生活費の一部、小遣錢を稼いでゐるにすぎません。境遇上自活しなければならないどんなに澤山の女が、そのために苦しんでゐる事でせう。誰が好きこのんで媚を賣つたり身を賣つたりするものですか。女が惡いのでもない、男が惡いのでもない。みんな必要がさうさせてしまふのです。そしてこれには、現在そのために苦しんでゐる全ての婦人が、力をあはせてその境遇を改めてゆくより外に途はないのです。

あなたが自活の能力を持たないといふ事は、ほんとに不幸なことだと思ひます。私は一層痛切に、全ての婦人が自活し得るやうに努めなくてはならぬと思ひました。

然し芳子さん。

今の世の中で私たちに許された範圍の自活の道を得たところで、それがどれだけ私たちに役立つものであるでせう。女だけではありません、男だつてみんなさうです。今の世の中で、私たち無產階級に屬するものにとつては、貧乏といふことはむしろ宿命的に脊負されてゐる重荷であるのです。そこにこそ勞働運動が有るのであります。あなたは自分一人でさへ養つてゆく途を持たないのに、子供を二人も連れては何が出來やうと案じてゐられますが、どうせわれ／＼の生活は、背水の陣を張つての鬪ひです。自分一人だつてやつて行けないのだ。子供の一人や二人あつたところでどうせ苦しみは五十步百步だ、と、斯ういふ風に考へることは出來ませんか。

私は、あなたのやうな人が婦人運動社會運動の第一戰に立たなくて、一體誰が立つだらうと考へます。現在あなたを苦しめてゐる社

會制度の缺陥のかず〲、家族制度に於ける、法律上に於ける、夫婦間に於ける、汎ゆる不幸、汎ゆる不合理の前にあなたの闘志を燃やしなさい。どうぞ私たちの群に投じて、婦人運動、全無產階級の解放のために闘つて下さい。

　然し現實の問題として、あなたの二人のお子さんの問題ですが、今の世の中にはあなたのやうな、或ひはもつとそれ以上に不幸な母や子のためにも、何の施設も準備されてありません。然し芳子さん。今の世の中こそ、不幸な者を無視して強い者の庇護にのみ努力を集注してゐますけれども――或ひは、それだからこそ、新しい社會の建設に向つて闘ふものゝ存在が、一層必要とされるのではありますまいか、私たちの仲間は、芳子さん、一緒に苦勞をしやうぢやありませんか、とあなたに話しかけたい連中ばかりです。どうせ、苦しまなくつちや生きてゆかれない世の中です。私たちは、苦しければ苦しいほど元氣になつて來ます。私たちが非常な苦しみの中に追ひつめられたとき、私たちの社會的正義感は極度に燃えて、ある不可抗の力が湧くのを覺えます。私たちは非常に勤勉に働いてゐる。或ひは働き度いと希つてゐる。それにも拘らず社會は、私たちに食を與へず、仕事を與へない。何と此の世の中は、不合理なことでせう。

　私たちはみんな非常に貧しい。然し、あなたのお子さんの一人や二人が加はつたところで、私たちと同じ苦しさにあなた方が身を置くならば、私たちの貧しさにさう大した變化があらう筈もない。あなたは、これまでの怠惰な寄生々活の安易さに心を索かれてはいけません。あなた方の子供の上にも、これまでのやうな美衣飽食を願つてはいけません。これまであなた方母子に許されてゐた豐かな生活の上品さ、氣安さは、それは幻の華にも似た、はかないものであつたではありませんか。

　あなたが、乾坤一擲の勇氣を振起して社會のまつ只中に身を投げ出したとき、苦しいではあらうけれども、これまで感じたこともなかつた非常に大きい力があなた自身の中からこみあげて來て、あなたを導いてくれるに違いありません。あなたの子供も、さういふ中に育てあげられてこそほんとうに生きた人間となる事が出來る筈です。自分で働いて食つてゆく途――今のあなたを救ふ途はこれより外にないと思ひます。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 出直さう

奥　むめお

いろんな婦人團體が生れて、それ〲立派な宣言や主義主張を揭げて相競ひ初めてからもう何年になる。新婦人協會の創立に前後して生れたうちの坊やでさへ、いくつ、と問かれゝば片手を擴げて「五つ」と答へるまでになつてゐる。

では、その間に婦人の生活がどれだけ革りどれだけ婦人の地位がよくなつたであらうかそれに就いて私は、それらのもつともらしい主義主張や、立派な宣言綱領等にもかゝはらず、その間、實際に於ける婦人の生活は少しもよくなつてはゐぬと思ふ。

婦人の地位は少しもよくなつてゐぬ。それがなまじいに、やれ婦人問題がどうの、かうのと喧しく論議せられ、甲乙丙いろんな婦人團體が生れて賑かだつた何年かを經過したのちの今日であるために、一層現在の婦人の生活が考へさせられる次第である。

それに　いて私は斯う思ふ……現在世に行はれる婦人問題、婦人論、婦人運動、それらのどれもこれもが、みな〲婦人の實際生活とは全でかけ離れたところで云爲されてゐて現實の問題とは何の交渉をもつてゐない、兩者は全く遊離してゐると、机の上で捏ね上げられた婦人問題、頭のテッ邊から出て來る婦人論、人眞似、カラ氣焔、お道樂で初められる婦人運動が、何を婦人の上に齎すことが出來やう。

私たちは議論にはもう飽きた。百の名論、千の卓說も、議論そのものとしては、われらの上に何の寄與をもなし得るものでないといふことを知つたからである。

それにも拘らずどうだ。今の世の中は、それらのいろんな婦人論を次から次へと受容れ送り出すことに何と無雜作であることだらう女權論、結構、母性保護、結構、婦參結構、女工問題結構、曰く何、曰く何、どの場合にもオーイエス、賛成　と、いかにも易々と賛同をし乍ら、而もそれ以上何しやうともせぬのである。そしていつまでたつても婦人の地位は、依然として風從と隷屬のうちにおき忘れられてゐる。

婦人問題は、議論としては今日ではもう、充分論じつくされ、說きつくされて、立派に解決されてゐると思ふ。私たちの求むるものは、その次のものである。

大多數の婦人の日常生活に就いてみよ。それらの婦人論、婦人運動にも拘らず、大多數の婦人は、現在なほ非常に無智で、世にどんな婦人問題が盛んであるか、又、自分たちが今、どんな立場におかれてゐるか等に就いて考へることさへ出來ないやうな深淵につきおとされてゐるではないか。又他の多くのものは、昔ながらの因循姑息な寄生々活のかげに眠つて、移り變る世の風潮など、どこを吹く風と云つた風ではないか。

自ら婦人論者と任じ、婦人運動家と稱してゐる婦人に於てさへ、なほ然りである。彼等が、一般の婦人と比べて、どれだけ立優つた社會意識、生活意識の上に每日を生きてゐるといふのであらう。

婦人は今や、自分自身の姿を正視しなければならない。そして、自分にとつて、最も緊切な問題は何であるかに就いて知らなければならない。そして、その最も緊切な問題のために、勇敢に立たなければならない。

婦人に關する議論も、運動も、全てが今や出直してかゝる必要がある。汎ゆる婦人運動が、婦人の實際の要求に根ざしたところから初められるために。



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

# ある對話

楫本まさを

秋野、三十位の女、書齋の机に凭れて本を讀んでゐる。神經質な表情をしてゐる。
絹子、二十七八の女、職業婦人らしい着付けで、いかにも惱を持つた憂欝な表情をして入つて來る。性格から來た硬さと、容姿の粗野なのが目に立つ女である。

秋野『さあ、何卒こちらへ、よく入らつしやいました。』
絹子『ありがたう存じます。度々伺ひましてお邪魔ばかり致します。……成たけつまらぬことは申上げないやうにしやうと思つて十分耐へてゐるつもりですけれども、でも、外にお話しする人もないものですから、お仕事してゐらつしやるお邪魔になるだらうと存じながら、又きいて戴きたくつて伺ひましたのよ。ほゝゝゝゝ』
秋野『あゝさうですか、否え、さう大した仕事があるわけぢやありませんし、又、私も乘りかゝつた船ですから、成たけなら圓滿に落着なさるやうに運びたいと思ひます、それには。何うせむだなやうでも細かいことをきいて置いた方が參考になつて好いと思ひます。心置きなくお話しなさいよ、又何か問題でも起きまし

たか？』

絹子『いゝえ、別に事新しい問題はおこりませんけれども、でも、田中の態度があんまりだと思ひます。』

秋野『では別に衝突したわけではないのですね。』

絹子『衝突したのぢやございませんけれども、ね、あゝやつて他さまのお宅にご厄介になつてゐると、矢張り小遣も要るしいたしますから、少し田中にねだりましたの、さうしましたら、田中が火のやうになつて慍るんですの。』

秋野『へえ？　何う云つて？』

絹子『ちつとは俺の境遇も考へて見てくれ、お前に金はとられるし、故郷の親達の方からは、送金が少ないと言つて小言をいはれるし、俺はたつ瀬がない、そんなつもりでお前がゐてくれるなら、今後一切構はない。はじめつから俺の要求してゐる通り離婚するから、さう思へ。かういふのですの、私も考へると浅ましくなつて、夢中になつてあの人の腕つ首に噛りついてやりました。』

秋野『ひどいことをしますね、田中さん怒つたでせう。』

絹子『怒りましたの何のつて、この畜生つて言つて、背後の壁に押しつけて、ぐんぐん頭をなぐるんですもの。とうとう私はそこで卒倒して仕舞ひましたの、下宿屋のおかみさんが飛んで上つて來て、何とかかとか言つて調停してくれましたけれども、私は夢中になつて、おかみにも喰つてかゝつてやりましたわ、だつてさうですもの、現在私達が別れられない夫婦だと言うことを知つてゐながら、故郷のおつかさんがやつて來て、絹子みたいな女を大事な倅にそはしておかれないとか何とか愚痴をこぼすと、もうその喉の下に入

つて私の惡口雜言を並べたてるんですもの、田中に言つてやりましたの、あなたは何かわけがあつて、この下宿屋にゐなさるんでせう、女房を抛りだしても、出て行かれないわけがあるんでせう、つて言つてやりましたわ。』

秋野『下らない喧嘩をしたものですわね。ですけれども、それぢやその下宿屋のおかみさんと、何か異しな關係でもあるのでせうか？』

絹子『さあ、あるんでせう。』

今迄激しく喧嘩の狀態を喋つてゐた絹子は、秋野に向ひつめられるとけろりとしてゐる。

秋野『さう呑氣ぢや困るのね、あるんでせうぢやない、あるかないかといふことは、一々嚴密に知つてゐなければならないぢやないの、田中がこんなことを言つたとか、あんなことを言つて私を叱り付けたとか言うやうなことは、あなた一人にとつては、つまり夫婦間の感情問題にとつては重大な事件か知らないけれども、私達第三者にとつては、他愛のない痴話喧嘩で、面白くも何ともない。けれどもさういふ風な、根本的な、田中さんがあなたに對して薄情にならずにゐられないやうな事件とか原因とかゞあるならば、この方は迂濶にしてはおけないからね、つまりあの人が、七年間も關係を持續し、同棲もして公然夫婦として暮してゐたものが、今度さういふ風に突然離婚を持ち出すといふ事は、故郷の親の干渉以外に、何か原因がありはしないかと思はれますからね。』

絹子『いゝえ、あのしみつたれですから、故郷の親より他に何にも原因はないと思ひますわ、故郷の親が、最初つから私との同棲に不平を持つてゐましたの、けれど、子供が生れたので仕方がないと思つてゐると、そ



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

のうち子供は死んで仕舞うし、あの人は故郷に歸つて行きさうにもないし、それにけちつぽい連中ですから、私が主婦として浪費が多すぎる、あれでは田中が幾ら働いたつて金は貯まらない、といふ風なつまらない理由から、親達があの人に迫つたのではないかと思ひますの。』

秋野『勿論表面の理由はその通りです、その通りだと私も思ひたいですもの、いかにも、あなたといふ人は主婦として不都合な人ですわ、露骨に言つて惡いけれども、職業婦人としての欠點をあまり多分に持ちすぎてゐるんですもの。』

絹子『おほゝゝゝ、さうでせうか？』

秋野『さうですとも。まあ私のやうな神經過敏な女なら、あなたのやうな人を自分の伜の妻にはしないな、かと言つて、直ぐに離婚といふやうな冷酷な處置はとりませんよ、けれども、少なくともあなたのそのルーズな、思ひあがつた、反省のないその態度には滿足することはできませんね、』

絹子『ですけれども田中も惡いですわ。』

秋野『田中さんは惡いでせう、田中さんの惡い第一の點は、あなたのやうな欠點の多い婦人を、迂潤に研究もせずに一緒になつて了つたといふことですもの。』

絹子『私も欠點は多いでせうけれども、あの男はなほ惡いでせう、私が職業を持つて、曲りなりにも獨立してゐるものですから、それに眼をつけて、口說きつけたのですからね、自分は、その時には、故郷からの學資金が少なくなつてやり切れなかつたものですから、私に助勢させるつもりで眼をつけたとしか言へませんもの。』

秋野『いえ、さうは思ひ度くないですね、そんな風に解釋するあなたの心持ちは汚ない。そんな風に男を値ぶみするものではない。』

絹子『でも事實が證明しますもの。』

秋野『しかし、それぢやあなたの職業によつてあなたに眼を付けたものならば、あなたも自分の職業を愛する以上本望ぢやありませんか。』

絹子『いゝえ、あなたの仰言るやうなそんな神聖な意味でなしに、私が、金のかゝらない女だから好いといふ風な打算ですわ』

秋野『では、そんな卑しい男をなぜ思ひ切つてしまへないのです、なぜ子供まで生んだのです。』

絹子『暴力ですもの。』

秋野『又はじまつた、そんな矛盾したことは言はないことですよ。もし暴力なら、そんな侮辱を與へた男に戀愛關係は持續てきませんからね、あなたがさういふ無反省なことを言ふから、むかふだつてお話しにならない劣等な態度で出るんです。それよりも、あなたはあの男が○大學の學生で、この男を良人にするといふことは、將來の不利益でないといふあなたこそ打算の上で成立したものではないでせうか、あなたは、職業婦人が、いつも位置のある男から欺かれて、貞操を弄ばれるといふ例を頻りにあげなさるけれども、貞操を献げる女の方に、それぢや少しの野心もなく、利害打算なしに、美しい正しい意味での戀愛として、それを取扱つたか何うかといふところになると、隨分怪しくなつて來ますよ。實は相手が弄ぶ氣持ちてゐるのを利用して、うまく關係をつけて、結婚して、この職業から足を洗つてかうといふ隨分際どい藝當を、女の方が

よけいやつてゐるやうに思ひますすね。』

絹子『それはさうですわ、箱入のお孃さんぢやないし、迂潤に欺されて耐りますものか、欺されないやうに注意してゐた私てさへ、このざまですもの。』

秋野『ですからよけいに馬鹿てせう。欺かれてはならないからといふ沈着さがあるなら、自分より以上の位置ある男を相手にしないで、もつと自分の生活に叶つた、同じやうな階級の男を選ぶべきてせう、出世主義のあぶなつかしい冒險て乘り出して、それで失敗したからと言つて、世の中を呪つてゐては、呪はれた方が耐らない。』

絹子『でも、他のこととは異ひますわ、職業や商賣て失敗したとはちがつて、思ひ切りがつきませんわ。』

秋野『それはさうですとも、私もその意味に於てこそ、あなたに御同情してゐるんてす、ですからあなたもこれを暴劣な物質的の打算で解釋しないて、田中さんが、職業婦人だから自分を玩弄して欺いたのだとは思はないて、もつと本當の意味での戀愛としてお考へになる方が、よりあなた自身の感情に適切てすよ。しかし相手の氣持ちが、美しい戀愛でないといふならば、それならば生活問題として考へても好いし、又夫婦としての實際問題として考へた方が好いんです。夫婦として實際問題から考へると、あなたといふ人は、妻としての價値の乏しい人で、非常に欠點の多い人ですからね、田中さんが、何處までもあなたといふ人を妻として、幸福てあり得るかないかといふことを考へると、まあ幸福でないといふ方が適當だと思ひますよ。あなたの方が人一倍の執着心を持つてゐるから、この同棲が割合に長くつゞいたのてすけれども、あなたがもう少し腕く出來てゐる女なら、迚もかうまで長くはつゞかない。男は好いかげんに玩弄できる

だけ玩弄して、ぷいと姿をくらまして仕舞う、まあさう言つたところが落ちてすね。あなたはどれだけ捨てられても、意地になつておつかけてゆくから緣がつゞいてゐるもの〻ね。』

絹子『え、だから私さう思つてゐるのですわ、どんなことがあつたつて、私離れてはやらないから。意地になつて離れてやらないんですもの、あいつを殺したつてあきたりないんですもの、私はこの間、あいつを殺す藥品までちやんと見付けましたわ。』

秋野『毒殺するんですか？』

絹子『いゝえ、浴びせてやりますわ。』

秋野『うゝむ（と少時間冥想にふける）けれどもそんなことをしたつて別に仕方がありませんね。』

絹子『何故、仕方がないことがあるものですか、うまくゆけば死ぬし、死なゝきや、一生不具者になつて人前に出られませんわ。』

秋野『それが復讐ですか？』

絹子『え、復讐ですの。』

秋野『なるほど、田中さんがあなたを怖れる理由が解りましたよ。さういふ惡魔的な氣持ちで側にゐられちやまつたく每日耐りませんものね、あなたのは、愛でなくて、執着と嫉妬だけです。』

絹子『えゝ、田中がさう言ひますわ、お前の顏を見てゐるとぞつとするつて、何かさういふ氣持が映るのかと思ひますの。ですけれどもまた、私が、あなたが別れやうたつて別れるものか、屹度あなたを殺してやるつていふから、それが怖ろしくつて今日まで一緒にゐたんでせうよ、でなければ、もつと早く逃げだす

か、私を抛り出したでせうよ。』

秋野『耐りませんね、毎日毎日脅迫されて、一日だつて好い氣持ちの日はないわけですからね。それぢや男の愛のさめてゆくのは當然ですわ。』

絹子『愛がさめるなんて、もともとあの男は、私を一時の食ものにしたんぢやありませんか。最初つから愛なんてあるものですか、私は一生あいつを呪つてやるんです。呪つて呪ひ殺すか、てなければ一生社會にたてなくしてやるつもりですの。』

秋野『しかし、あなたのその嫉妬と執着とを斷つてしまつて、女らしい、優しい美しい愛をそゝぐやうになれば、男は、今度は反省しはじめますよ。何うです、ほんとうの復讐、女としての最も適當な復讐は、その嫉妬を露骨に出さずに、反對に。男から熱中して來るやうにしむけて、而して散々相手の血を絞つてからぷいと捨てゝし舞うんです。つまりあなたの嘗めた苦盡を、こんどは相手に嘗めさせるやうにするんです。』

絹子『いくらどんなにしたつて、私を愛して來ないぢやありませんか、熱中させやうたつて、爲ないのですもの、仕方がありませんわ。』

秋野『それには、むかうからの要求のすべてに投じることですよ、何を相手が欲するかといふことの、すべてをあなたが知り拔いてゐなければなりませんよ。而して求めらるゝものをみな與へるんです。迚もあなたより以外の女では與へられないほどの大きなものを、あなたが献げ盡すのです。而して十分に相手に捧げきつてごらんなさい、いかに冷血な男でも、その時にはきつと此方をむいて來ますよ。』

絹子『えゝ、それは考へたこともあるんですの、私がよくない仕向けをしたといふ氣持ちは十分あるんです

の、ですけれども、何も外の女だつて、さうさう自分の良人に献げきつてはゐないと思ひますわ。寧ろ、私なんぞより不正直なお世辭で、男を欺してゐるぢやありませんか、それから見ると、私は正直な態度ですわ』

秋野『さあ、そこですね、あなたのやうな生一本の無技巧では、世の中は渡れないといふことは。殊に離れては耐らないといふ男の前では、少しは謙遜になる必要もあるし、また自分の卑劣さを顧みて耻ぢるほどの、女らしい技巧も必要ですよ、あなたは、田中さんの爲めにお化粧ひとつ研究したこともなければ、髮の結ぶりひとつ氣にしたこともない、いはゞ厭はれるやうに、好かれないやうに、飽きられるやうに自分みづから導いてゐるやうなものですね。』

絹子『ですけれどもね、田中は私が醜婦だからいやなんてせう、美人なら好いんてせう、と言つてやつたらはじめつからおたんちんは知つてゐる、まだらの、粉ふき柿のやうな白粉はつけてくれるな、なんて言うんですもの、さうまで白粉くさい女が好きらしくもないのですわこ』

秋野『さうですかね、私はさう思はないな、矢張り男にとつて、殊に家庭としての慰籍の一つは、異性の、一種かう説明のできないやうな一種の匂ひてせうね、それがなければ、それは男同志が接觸してゐるやうで、うまくも何ともないんぢやありませんか。寧ろ甚だ厄介な、ある意味ての牢獄ぢやないの。』

絹子『まあ牢獄てせうね、だから私も、こんなに捨鉢な氣持ちになつちまいましたわ。』

秋子『ああ、耐らない、よく田中さんが今まで辛抱したものですね。』

絹子『私が怖いから、離婚しなかつたのてせう、今度は故郷のおつかさんが、二人を引離したものだから、

それで強くなつてゐるんです。近々故郷に歸つて、改めてお嫁を貰つて結婚させるとおつかさんは言つてゐました。さうしたら、私はきつと殺してやりますわ。』

秋野『ですが、あなたの態度が改まれば、私は一度調停して見ても好いですよ。けれども、今のやうなあなたの亂暴な態度では困ります。』

絹子『えゝ、では調停していたゞけるでせうか、田中がもう一度私を家に入れてくれたら、今度は私も改めますわ、きつと、きつと、改めますわ。』

秋野『その前にあなたが犧牲を拂はなければなりますまいね。』

絹子『どんな犧牲でも拂ひます。』

秋野『一ケ年ほど、あなた自身の欠點を矯正するやうな、苦しい修業をするんです。』

絹子『あゝ、またあの一燈園の乞食になれと仰言るんですか?』

秋野『乞食が必ずしも貰いわけぢやないのですが、あなたの生活のすべてを反省する方法として、外に選びやうがないものですからね。』

絹子『え、田中に再び歸れるなら、それも仕方がありませんわ。』

秋野『一度田中さんに逢つて見ませう。』

二人はぢつと暗黑な沈黙の中にはいる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 原稿募集

【論　文】十五枚位（四百字詰）
【時事批判】長短隨意
【創　作】二十枚位（同　前）
【感想文】詩歌、其他飜譯など
締　切（毎月五日）
宛名は、職業婦人社内
「婦人と勞働」編輯部へ

## 誌代、贊助費の拂込に就いて 前金講讀の實行

九月號の發送と同時に、未拂の誌代、贊助費の請求書を送りましたから、どうぞ早速拂込んで下さい。何しろ、みんな片手に職業を持つた上でやつてゐる仕事ですから、手不足です。みなさんに於ても、出來るだけ私達の余計な勞力が省けるやうにお心添下さい。やむをえぬ方々だけ、後より集金郵便を差出すことにしますが、御存じの通り集金郵便は、うける方も差出す方も愉快でない上に、一口八錢といふ手數料をとられるし、二圓以上でないと取扱はないのできはめて不便です。なほ、この際、全部前金購讀にしたいと思ひますから、以後前金切の場合ばすぐ拂込んで下さい。

△編輯室より▽

○すつかり秋らしい風が吹いて來ましたね。健康にそして面白くこの夏をおすごしの事と思ひます。秋立つて近頃の御感想はいかゞ。

○あちこちの夏季大學や講習會に際して、わが職業婦人社として大宣傳をやる意氣込みで、いろ〳〵豫定を作つてゐたのでしたが、思ふやうに實行出來なかつた事は殘念でした。

○石山さんは林間學校に働くことになつたし千葉さんは會社が忙しくて、九月に入らなくては夏休みもとれないといふ鹽梅だし、矢部さんは母さんが親戚の不幸のために田舍へ行かれたあと、その留守番を仰せつかつたし奧さんは病氣にとつつかれた、

○中山さん、今井さん、鎌田さんらの猛者連が隨分口惜しがつたのですが、あとに殘つたものだけでは如何にも手不足で、動きがとれなかつたのです。そんな事情で、恒例の八月リーフレツトも、實行しないでしまいました段惡しからず願ひます。

○私たちは學校に通つたり、會社につとめたりしてゐるかたはら、いろんな社用で忙しく働いてゐますが、それでも、奧さんの所謂「貧乏世帶のおかみさん」振に比べたら餘程限りある忙しさであることを思ひます。

○職業婦人の生活にいろんな問題が掛つてゐると同時に、現在の家庭婦人の生活も、このまゝでは濟まされない多くのものを含んでゐると思ひます。

定價

一部　金三十錢　郵稅五厘
半ヶ年　金一圓八十錢　不要
一ヶ年　金三圓六十錢　不要

廣告料

特等　一頁　四十圓
一等　一頁　三十圓
二等　一頁　二十圓
半頁　十圓
四回以上割引あり

御注文は總て前金で願ひます。
御送金は振替に御拂込み下さい。
郵券代用の際は一割增の事（一錢又は五厘切手にて）
誌代の領收書は別に差上げません
雜誌發送を以つてこれにかへます

大正十三年八月廿九日印刷納本　第二卷
大正十三年九月一日發行　第五號
編輯發行人　東京市外巢鴨町一〇一九
印刷人　奧むめお
印刷所　東谷市外下澁谷五三三　株式會社弘榮社
發行所　東京市外巢鴨町一〇一九
「婦人と勞働」職業婦人社
振替東京六四一六〇

大正十三年八月二十九日印刷納本
大正十三年九月一日發行

婦人と勞働

第二巻
第五號

定價金參拾錢

職業婦人社發行

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN